

# ネットワーク堀

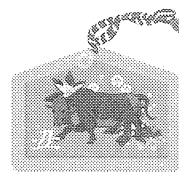
第53号

令和3年1月25日

発行

大正地区福祉  
推進協議会

## 令和二年を振り返って



大正地区福祉推進協議会幹事

福井

平素は大正地区福祉推進協議会の事業推進活動に対しまして各種団体の皆様並びに区民の皆様の多大なご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、令和二年は新型コロナウイルス感染症の拡大で私たちの日常は大きく揺るぎました。

三月から四月の第一波、七月から八月の第二波、十月から現在に至る第三波。

十二月二十一日現在、厚生労働省のデータでは、感染者数は198,523例、死亡者数は2,900名、要入院治療者は26,941名、退院または治療解除となった人は167,513名となりました。

京都府内では、感染者数が3,829例、福知山市では30例となっております。

特に第三波では1日の感染者数が2,000人を超える日が多く、第一波、二波と比べて第三波の感染拡大のペースの速さが際立っています。

長期間による新型コロナウイルス感染拡大の影響で経済の落ち込みが激しく、企業倒産や失業者数増大、また医療崩壊の危機が叫ばれています。

当福祉推進協議会におきましても、大堀区自治会と共催で十一月に計画しておりました関西電力大飯原子力発電所の視察研修が中止になったり、大堀区自治会主催の大正学

区敬老会が中止になったりと、ほとんどの事業がやむなく中止となりました。

しかし、最近になりワクチンの開発が進み、ファイザー製ワクチンの承認申請がされました。日本製ワクチンの開発はまだ時間がかかりそうですが、少しでも早い時期に安全なワクチン接種が行き渡ることが期待いたします。それまでは一人一人の感染対策への協力が求められます。

先日各戸配布されました『冬のコロナ対策へのご協力をお願いします』などを参考に自分の大切な人たちと自分自身を守るためにも十分な感染対策をお願いします。

一日も早くこの感染が終息し、以前のような活気ある生活に戻りたいものです。

### 「コロナに負けるな」

大正地区公民館 館長 菅 沼

大正地区の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素は大正地区公民館の事業に多大なるご理解・ご協力・ご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。

今年度で館長として四年目を迎えましたが、今後とも何卒宜しくお願いいたします。

さて、大正地区公民館は、永年継続されているテーマの「集い・学び・ふれあい」の場所づくりを念頭に置いて、大正にお住まいの皆様とのコミュニケーションを大切に、取り組んでいきたいと考えております。

ところが、今年度の公民館活動の取組におきましては新

型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「公民館まつり」や「夏祭り」等、多くの事業を中止いたしました。

しかし、そのような状況の中でも、自治会長会役員の方々や公民館本部役員で慎重に協議を繰り返し、何とか「グラウンドゴルフ大会」「文化教室」「ふれあいバス旅行」の事業は実施することが出来ました。京都府内に於いても多くの方々が新型コロナウイルスに感染されておられます。感染者の皆様の一日も早いご回復と共に感染拡大の早期の終息を願っています。

今後の大正地区公民館といたしましては、過去の課題を踏まえ、地域・学校・関連機関と密に連携を取りながら、よりベターで元気で親しみのある憩いの場にしてゆきたいと考えております。

また、桃映地域公民館（桃映コミセン）が立ち上がって以降、庵我地区公民館との交流も年々深まり、その中で改めて大正地区公民館を見つめ直す機会をいただいております。

地域社会を持続するために私が学んだのは「誰もががちよっと立ち寄ってみたくなる魅力ある公民館」「これからの地域創りに貢献できるリーダーが育つ人材育成の場」「地区の皆様が気軽に参加しやすい環境創りの必要性」です。まずは身近な生活に根ざした日常を原点に考え、行動に移して行きたいと思えます。

コロナに負けない気持ちと行動を常に念頭に置き、大正地区公民館を前へ進めていく所存でございますので、これからもご支援いただけますよう、何卒宜しくお願いいたします。

## 災害に強いまちづくりを目指して

福知山市消防団大正分団 分団長 高岡

区民の皆様には大正分団の消防団活動に対し、多大なるご理解とご協力をいただいておりますこと、また皆様の防火・防災に対する意識

のおかげで、年々火災の発生件数も減少しておりますことも含め、心より感謝いたしております。

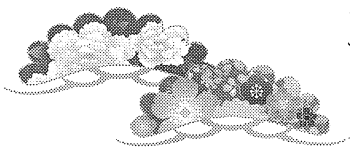
昨年は新型コロナウイルスという世界を脅かす感染症の影響により、普段の生活がままならない状況となり、様々なイベントや行事が中止となりました。消防団も2年に1度の「消防操法大会」が中止となり、訓練等も制限されました。

そのようなコロナ禍ですが、大正分団は十一月に第1部の車輛が更新され、車輛および小型ポンプ共に新型となりました。新年を迎え、一月十日に挙行されました福知山市消防出初式も、分団列進および一斉放水が中止となりましたが、厚生会館での式典においては大正分団から十二名の団員が表彰を受けました。

また式典終了後、分団員全員で毎年恒例の一宮神社へ参拝をし、無火災・無災害と消防活動の安全と無事故を祈願してまいりました。

今後毎月1日の「防火の日」の防火広報や訓練等、コロナウイルス感染症の対策をしっかりととしての活動となりますが、災害や火災から地域を守るため消防団員一丸となって防火防災活動に取り組んでまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大が終息し、平穏な毎日が戻りますことを願うと共に、災害に強いまちづくりを目指し、輝かしい年にしていきたいと思えます。



# 「5つの誓い」を大切に

桃映中学校 校長 一色

十一月三十日に桃映中学校にて「命の授業」の講演会を開催し、腰塚さんにお越しいただきました。腰塚さんは十八年前にスキー事故で首の骨を折られ、首から下が全く動かない状態から奇跡とも言われる復活を遂げられた方です。その腰塚さんから「5つの誓い」の言葉を教えていただきました。

口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう

耳は、人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう

目は、人の良いところを見るために使おう

手足は、人を助けるために使おう

心は、人の痛みがわかるために使おう

私はこの「5つの誓い」が好きです。大切にしたいと思っています。またこの「5つの誓い」を色んなことに当てはめて考え行動に移したいと思います。

桃映中学校は、私自身にとって思い入れの深い学校です。初任者として、教頭として、校長として、今回が3回目の着任です。若かった頃、地域の皆さんに色々と教えてもらったこと、失敗しても励ましてもらったことなどが思い出されます。そういった方々と再会するととても懐かしく、いつも大きな元気をいただいています。

令和2年はコロナ禍で色んな行事がなく



なりました。市内中学校では、修学旅行や職場体験学習、部活動の中心以上の夏季総体や吹奏楽コンクール等がなくなり、生徒たちはとても寂しい思いを持ちました。それでも生徒たちが、けなげに頑張る姿には、いつも励まされる思いを強く感じました。

そんな中において、森垣での植樹体験をしてみませんか、桃映コミセンの行事にボランティアとして参加してくれませんか等、地域の皆さんからの声かけがとても嬉しかったです。

地域の皆さんが子どもたちに直接関わってくださることが何よりも嬉しく、子どもたちにとっても地域の皆さんと話ができたことが自信につながったり、ふるさとの誇りにつながったりするのだと思っています。まさに「ネットワーク堀」の神髄だと思っています。いつも出合いと励ましに感謝しております。ありがとうございます。

## コロナ禍でも育つ子どもたち

大正小学校 校長 渡 邊

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、様々な対応をとってきました。一学期には臨時休校、二学期の開始は八月二十四日から。運動会や大正つ子フェスティバル等の行事は縮小しての開催、PTA行事は学習参観を除いて中止をする等、例年とは全く違った形での取組となりました。

そんな毎日でしたが、学校では一人ひとりに学力をはじめとする大切な力を身に付けるために様々な学習や活動に取り組んできました。中でも、学校生活を送る上での基盤となる力「ルール・あいさつ・時間」を全児童が身に付けることを目指して取り組んできました。その取組は、子どもたちが日常の生活と結び付けやすいように、さらに8つの分かりやすい項目にしています。

『チーム大正!』(みんながみんな取り組む合言葉)

①「名札」(大正の子どもは必ず身に付ける)

②「ベル着・ベル準」(チャイムに合わせ自席に着き学習の準備をする)

③「あいさつ」(学習の始まりや終わりにには大きな声であいさつする)

④「ろうか歩行」(廊下は歩いて通る)

⑤「ふではこ」(筆箱の中身は揃えて学習に向かう)

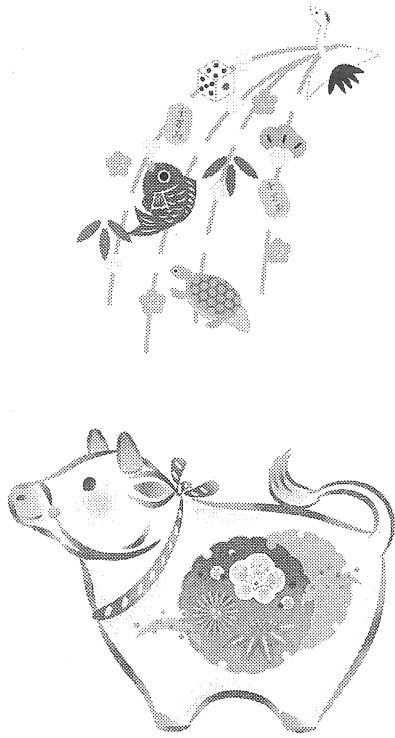
⑥「くつぴったん」(靴箱には靴のかかとを揃えて入れる)

⑦「先取りあいさつ」(自分から進んで「おはよう」「帰りました」のあいさつをする)

⑧「もくもくそうじ」(掃除は黙って自分の役割を果たす)

二学期を終え、十分達成したとは言えない項目もありますが、年度始めと比べると、どの項目においても、ほとんどの児童が真面目に取り組む姿が見られるようになり、学校生活での様子も変わってきました。コロナ禍では、学校生活において様々な対策を講じたり制限をしたりしなければならぬこともありますが、一人ひとりに着実に力がつくように、今後も引き続き指導をしていきたいと考えています。

「先取りあいさつ」は地域の中で生かせる力でもあります。これからも地域の皆様には、どうか温かい目で見守っていただければと思います。よろしくお願いたします。



## 桃映コミセン(地域公民館)のご紹介

桃映地域公民館 館長 大西

桃映地域公民館、通称『桃映コミセン』が発足して丸3年が経過しましたが、まだまだ皆様方の認知度は低いようです。

元々平成3年に「桃映地域体育館」として建設され、以来二十六年間、多くの方に利用されてきました。現在、卓球・バドミントン・ビーチボールバレー等、二十を超えるクラブやサークルが利用されています。その体育館に桃映コミセンの事務局が入っています。玄関の傍らに「桃映地域公民館」の看板が掛かっています。場所は大正文化センターとあゆみ保育園様の向かい側になります。

事業の内容は、生涯学習としての各種講座教室、人権講座の開催、スポーツ大会、フリーマーケットやコンサート開催などを通しての「地域のつながり」作り、また「心の教育実践活動桃映ブロック」として家庭・地域・学校と連携し、子どもたちの思いやりや豊かな人権感覚や人間性を育み、さらに学習の支援も行うなど、青少年の健全育成を図るための事務局も担っています。

今年度初めて開催した「ふれあいコンサート」はコミセンとしての心の教育実践活動として取り組みました。しかし、コロナ禍の影響で小中学校の参加が出来ませんでした。今後は学校の参加を得て、さらに充実した事業に育てていきたいと考えています。

このように幾つもの役割を担っているコミセンですが、当面最大の懸案事項はその存在を広く知っていただき、スポーツ利用以外でも参加していただけることを願っています。そのために、定期的な「コミセンたより」の配布や「募集チラシ」などを回覧等で広報していきます。地域の皆様方には、今後ともコミセン事業に関心を持っていただき、ご支援・ご参加のほど何卒よろしくお願申し上げます。